

令和7年度長岡市上下水道事業審議会 第1回(令和7年10月8日)

【議事概要】

第1部 長岡市上下水道審議会委員委嘱状交付式

1. 開式
2. 市長あいさつ
3. 委嘱状交付

第2部 長岡市上下水道事業審議会

1. 会長及び副会長の選出
2. 議題
 - (1) 「長岡市上下水道ビジョン」の概要および進捗状況について」

【質疑応答】

事務局より資料に基づき説明

1. 上下水道ビジョン(経営戦略) 資料 P3~P16

(委員)

10ページの長岡市上下水道事業審議会中間見直しの中の料金改定ですが、水道料金は値下げになる一方で、下水道使用料は値上げになっています。その背景について説明を。

(事務局)

水道料金は、地下水だけではなく京都府営水道の供給を受けています。京都府営水道料金の改定により仕入価格が下がったため、市民生活を考慮して水道料金を値下げしました。下水道使用料については、以前から下水道使用料収入だけでは経営が成り立っていない状況で、不足分について一般会計から赤字補填として出資金(税金)を受けており、長年解決すべき課題としていました。

上下水道料金の改定にあたっては、当初、令和2年度に同時に実施する予定でしたが、新型コロナ等の影響もあり、下水道使用料改定については、1年後の令和3年10月に20%弱の料金改定を実施することによって、出資金を解消し経営改善を進めました。

(委員)

私も上下水道について少なからず関わってきた中で、府営水道の方は先に宇治浄水場ができて、次に木津浄水場、最後に乙訓浄水場ができ、後になるほど料金が高くなるのが前提で、府営水道は先に作った方が安かったです。しかし、宇治、木津、乙訓の浄水場を連携的に運用できるようにということで、供給料金を統一料金にする方向となり、特に一番高くなっていた乙訓系の料金が下がる方向となりました。一方、下水道については洛西浄化センターが一番最初にできたことから、下水道使用料は一番安かったです。ただ、様々な今日の現状・情勢により上げざるを得なかったのではと、携わってきた中での思いです。

(会長)

補足ですが、京都府営水道には、3つの水系があって、元々は地域ごとに別々の水源(ダム)によっていました。ですので料金に各々のダム建設費用が含まれています。長岡市を担当する乙訓浄水場の建設に際し、日吉ダムを建設しましたが、このダムの建設費用が料金に反映されていました。しかし、同じ府営水道の中で料金が異なるのはおかしいだろうという話もあって、3つの水系を連絡管で繋ぎ相互融通できるようになったことをきっかけに、統一料金となり、供給料金が少し下がったのを上手に利用して、下水道使用料とのバランスをとりつつ、適正な料金に近づけたということだと思います。

ビジョンと経営戦略についてですが、私もすごく詳しいわけではないですが、経営戦略と国が言っているビジョンは別物です。水道では、今は、国土交通省、昔は厚生労働省が所管だったのですけれど、国のビジョンを参考に全国の各水道事業体にもそういう理念・目標を設定しなさいと指示された。これは経営のことだけではなく施設や人のことが含まれています。下水道については、国土交通省が国の下水道ビジョンを策定したことから、長岡市の場合には、上下水道事業セットで同じように

ビジョン理念を策定しました。経営戦略というのは、これとは別に、総務省の要請で向こう10年、20年くらいの水道事業、あるいは下水道事業の経営がどうなっていくのかをシミュレーションしないといふのです。長岡京市の場合、それが全てセットになっていると理解しています。経営戦略とは別に少いいろいろな上下水道を取り巻く要素を含んだゴールや理念に近いものが、長岡京市の上下水道ビジョンの構造と私は思っています。

上下水道事業は、今、国土交通省が基本的には担っていて、水質は環境省がやっているのですが、それとは別に地方公営企業(長岡京市)がやっている事業は総務省が見ている。何が、言いたいかといふと、これがなかったら水道事業ができないかといふと、そうでもないのですが、経営戦略やビジョンがあった方が、経営の見通しは良くなると思うので、目標が達成した、しないに縛られすぎても良くないのですけれど、見通しを良くするという意味で、こういったビジョンとか経営戦略というものが存在しているのだと思います。

こういった目標のようなものを設定すると、ともすると達成する、しないの話になる。そんなことよりも何が大事なのかを見極める、そういうビジョンにしていただきたいという意見を過去にも申し上げてきました。勿論、上下水道部としては、全て達成しましたとしたいと思いますが、もうちょっと崇高な理念に基づいてあるべきだと思っていて、中間見直し時にもお伝えしたございました。

事務局より資料に基づき説明

2. 上下水道事業(公営企業会計) 資料 P17～P21

(委員)

20ページ。公営企業会計と民間企業会計との違いは。

(事務局)

民間企業の場合は、利益を追い求めるというところで経営をされていますけれども、公営企業の場合は、利益がないというか、マイナスになったとしてもやらなくてはならないような事業活動があります。公共のため、利益がなくても実施することがあるという経営方針のお話です。

(会長)

上下水道事業が税金ではなくて独立採算制だったのは、歴史的な成り立ちもあると思います。今は水道が100%普及していることにより全ての方がサービスを享受できますが、昔はそうではなくて徐々に整備されていった。公営企業は、使っている人の受益者負担で経営することが特徴のひとつです。

仮に税金を払っているから好きなだけ使っていいとなったら、使いすぎて水が枯渇するとかいくつかの理由があると思うのですが、市の財布とは別になっているのが特徴のひとつです。後で説明があると思いますが、下水道については、ふたつの財源があります。汚水事業は使用料で、雨水事業は使った人が払うというよりは税金でカバーしており、収入の構造が違う。そこが水道と下水道の違いです。建前としては水道事業は完全に独立していて、下水道事業は排出した水については料金、雨水や雪などの浸水対策はみんなが等しく享受・負担すべきものだから税金でというように、収入の構造が少し違う面があります。

事務局より資料に基づき説明

3. 水道事業 資料 P22～P29 4. 下水道事業(汚水・雨水) 資料 P30～37

(委員)

25ページ。私は長岡京市に住んでいるのですが、浄水場があることを知らなくて。東第二浄水場は今稼働していますか。

(事務局)

稼働しています。

(委員)

乙訓浄水場から幹線で流れてきている府営水道の水が東第二浄水場に来ているのですか。

(事務局)

府営水道は、市の配水地等の市内 3 か所(図★印)で受水しています。

(委員)

配水池で井戸水と府営水と50%ずつでブレンドしているのでしょうか。

(事務局)

概ね50%で配水しています。

(委員)

東第二浄水場は取水井戸 7 か所からの井戸水を浄水しているのでしょうか。

(事務局)

井戸水を東第二浄水場で水道水(浄水処理)にして各配水池に送水し、府営水道とブレンドし、給水区域ごとに供給しています。

(委員)

東第二浄水場の水道水は4給水区域に供給しているのでしょうか。

(事務局)

そのとおりです。

(委員)

そうであれば乙訓浄水場の水が、東第二浄水場にも行っていますか。

(事務局)

来ていません。東第二浄水場から水道水を配水池へ送水し、そこで府営水とブレンドして各給水区域に自然流下方式で供給しています。

大口事業所には、天満塚給水区域にある府営水道受水施設から、府営水100%の水道水を供給しています。

(委員)

全てがブレンドしている訳ではないのですね。

(事務局)

市民向けの水道水はブレンドしていますが、一部大口事業所には府営水のみを給水しています。

(委員)

29 ページ、37 ページ。水道事業も下水道事業も、項目その他で説明がありました技術職員(技師・経理)の技術継承・育成についてですが、技術職員が少なくなってきたのは京都府も一緒なのですけれど、実際に長岡京市でも少なくなってきた状況なのでしょうか。

(事務局)

おっしゃる通り、技術職員は減少傾向となっています。採用も力はいれていますが、厳しい状況です。下水道事業につきましては、京都府(流域下水道)を中心に、関係する市町と連携しウォーター PPP(官民連携手法)で維持管理を進めていく取り組みを現在検討しています。

(委員)

この前、新聞で城陽市が先行して実施するという情報があったので、長岡京市の状況はどんな感じなのかと思いました。

(委員)

水道事業はどうですか。

(事務局)

水道事業につきましては、浄水場の運営委託とか窓口の委託を市単独で実施しており、ウォーター PPP という大きな枠組みで実施する検討はしていません。長岡京市の技術者の数も少し減ってきてはいるのですが、令和 6 年で 13 人、全体でいうと 60% を目標にしていますが 54.2% というところです。確かに確保は難しくなってきていますが、自前で技術継承ができるような研修も踏まえて、安定的な工事ができるような体制は確保していきたいと考えています。

(会長)

今の話は、人手が足りなくて上下水道事業共に民間の力を借りる手法が少しづつ入ってきていますが、下水道事業の方が先行しています。水道事業はどうしても保守的というか、口に入るものというところもあって、徐々にという状況なのですけれども、長岡京市の場合は、人口の方もほぼ一定というか減っていないのですが、徐々に考えないといけないことかなと思っています。日本中で課題になっていることかと思います。

(委員)

33 ページ。下水道事業で、山手の部分が整備されていない理由はなんですか。

(事務局)

水道と下水道の整備方法には決定的な違いがあります。水道の方は圧力を加えて送るため、山の上でも供給することは可能なのですが、下水道は圧力をかけずに自然と流れるよう施設を整備しており、どうしても山の上の方に迎えに行こうとしますと、長い整備延長の下水道をほんの少数で負担していただかないといけなくなります。かえって効率が悪いといいますか、ご負担が高くなってしまいますので、そういう山間については、それなりの世帯数がない限り、残念ながら効率が悪いということで事業として整備対象外となっています。

(事務局)

補足します。

長岡京市全体の人口のうち下水道が使えるようになる人口の割合が人口普及率といいまして、現在、99.9%となっています。いわゆるこの地域の方だけが公共下水道を使えない状況で、先ほど説明させていただきました通り、山間部に長い延長の下水道管を整備することはコストの面で難しい状況です。そのため、公共下水道というとらえ方ではなく、いわゆるコミュニティプラント(違う手法)という、その場所で処理場を作り下水を処理することも視野に入れながら今後は検討していきたいと考えています。現状では、公共下水道としての整備は難しい状況です。

(会長)

上水道や下水道というのは都市の人口密度がそれなりにあるところのシステムで、まばらになると非常に効率が悪いです。長岡京市内みたいにいっぱい人がいれば、まとめて水を綺麗にしてパイプで配ってそれをパイプで集めて処理するというシステムが一番効率がいいのですが、この山間部はすごく人口密度が低いので、効率が悪い。言い方は難しいのですが、上水道とか下水道のサービスがあれば良い、ないから良くないというのではなくて、そういう地形だと人口密度に応じた適切なシステムがあるという話です。

事務局より資料に基づき説明

5. 大規模地震・大規模災害の発生頻度の増 資料 P38～P42

(会長)

42 ページ。図に示してある道路みたいなのは道路ですか？水道とともに入ってますか。

(事務局)

上下水道管は緊急輸送道路等を含め道路下に埋設されていることが多く、それが壊れますと、道路そのものが使用できなくなるというようなことがあります。実際、阪神淡路大震災のときも、国道が消防車、救急車、自衛隊の車が通行できなくて救援が遅れたというような事がありました。そういう地下に埋設されている水道や下水道管の耐震化がしっかりしていれば、道路の損壊も軽減できるのではないかということだと思いますが、こういった緊急輸送道路は最優先として耐震化を進めるべきだというような考え方方が国から示されています。

(会長)

道路という意味だけでなく、病院等には少なくとも水をという意味ももちろんあるかとお伺いした次第です。

(委員)

水道なり下水道からは少し離れるのですが、多分地震が起きたら、電柱が倒れたりして緊急輸送道路が通れないっていうことからすると、今、長岡京市が進められている電柱の地中化っていうのを緊急輸送道路の個所で実施されているので、一番大事なところを一生懸命やっているというふうに感じている。

(会長)

見た目もすっきりしますし、コストはかかるのでしょうか、観光業もそれなりにあるし、地中化をやることでいろいろいい面があるのではないかでしょうか。

事務局より資料に基づき説明

6. 上下水道施設の老朽化に伴う事故 資料 P43～P49

(委員)

長岡京市も、少なくとも桂川右岸流域下水道の污水管の各幹線があると思うのですが、50年経過している。多分、京都府が管理している污水管ですので、京都府がどういう状況かは調査していると思いますが、その辺の調査結果などは長岡京市として何か聞いておられますか。

(事務局)

毎年、会議の中でどういった検証を行っているのか、場合によってはどういったことを問題視しているのか、そういうことについてお知らせいただいている。また、老朽化対策を含めて、耐震化を進めるために、内部から新しい下水道管を設置するというような改築更新工事を進められており、その概要についても写真付きで報告をいただいている。

(委員)

具体的にどこがどうこうっていうのではなく、一般的な話を市が会議を持って、教えていただいている感じですか。

(事務局)

桂川右岸流域として関係する3市1町を集めていただいた会議など、情報交換の場を設けていただく中で、カラー資料等を使用し、例えば改築更新事業として東幹線のこの場所で実施しましたなど割と細かくご説明をいただいている。

(事務局)

補足

流域下水道の管路については、今回の八潮市の事故を受けて、国土交通省の方から管路の外径が2000ミリ以上の管を点検するよう通知がありました。長岡京市においては最大管径が1200ミリの管で該当はしなかったのですが、京都府の流域下水道管では171号線に埋設されている幹線約2.2キロの管路が管径2000ミリ以上でした。京都府からは点検した結果は問題なかった旨の報告をいただいている。

(委員)

水道管で鉄管は古く強度の劣るタイプがあるということですが、市では管路更新もされていると思いますが、まだ古い管が残っていますか。

(事務局)

市では昔整備したCIPという鉄管が1000m程度ありますが、そのうち171号線の緊急輸送道路下では約250mが残っており、更新は令和8年から10年までの3か年の中に実施する予定です。

(委員)

緊急輸送道路下を優先的にやっている状況なのですね。

(会長)

今はダグタイル鉄管をメインで整備しているのですけれど、その前の世代の管がやっぱり残っていてそれが壊れるということです。京都の漏水事故の後、大阪でもあって、水道管の話は時々報道されるのですが、件数を見ていますと年間2万件ぐらい全国で発生していてここ数年は横ばいです。古い管を更新していくのが先か、古い管が壊れるのが先かで、これから増えるのか減るのかっていう瀬戸際のところかなと思っています。お金の話もありますがいきなり全部更新していくという話でもなく、優先順位をつけて更新していくということです。今の管は多分50年とかでは壊れない。60年とか80年とか条件にもよるが100年持つ管もあるだろうと思います。状況はある意味良くなっていると思うのですけれど、まだちょっと古い管が残っていて比較的京都とか大阪とか古くから水道があるようなところの事故が多いような気がします。

(委員)

水道管を更新するタイミングは。

(事務局)

管路更新計画があり、管路の法定耐用年数は40年ですが、状況によっては40年で布設替えをし

なければならないという訳ではありません。埋設されている土壌等を考慮し、優先順位を付けて更新しています。

(会長)

管路は基本的に地中に埋めるものなので、難しくて1回埋めてしまうと状況が把握しにくいものです。今、事務局から説明があったように、だいたい何年経過した、あるいはその周りにある土が酸性だと腐食しやすい、幹線か枝線か等など、そういう条件を踏まえて、優先順位をついているという理解です。

本来であれば一応、耐用年数という意味では40年で全部替えるべきなのですが、なかなかそれが厳しくて少し遅れ気味で時々、事故が起きている状況です。ただ、逆に言うと40年経過したから壊れるものでもないです。条件が良ければ50年、60年大丈夫なところもあるので、そこは経験とかも含めて優先順位をつけて決めていくことなのかなと考えます。

(委員)

更新について何か資料とか、例えばパソコンに更新情報がはいっていて確認するのですか。

(事務局)

台帳としてまとめています。

(会長)

丁寧にやられていると思います。

事務局より資料に基づき説明

7. 上下水道施設の耐震化および老朽化対策 資料 P50～P61

(委員)

58ページ。長岡京市で実際に陥没事故が起きたということで、これが30年経過した下水道管で発生したことなのですが、ちなみにこの時の原因究明としてなぜ30年で陥没事故が起きてしまったかについて何か知見とかはありますか。

(事務局)

下水道の仕組みにも関わってくるのですが、高低差があるような形で汚水が落ちてしまうような構造になっていますと、硫化水素という気体の硫酸のようなものが発生してしまいます。ちょうどこの場所ではそういう構造になっておりまして、硫化水素という気体がコンクリートを溶かす、腐食させるというところがあります。ここではそういう高低差がある上にコンクリートで作った施設があったため、下水は問題なく流れるものの徐々に腐食が始まっていて、ある日突然陥没が起こってしまった。この原因を究明するため第三者的に調査会で調査をいただいた報告書では、そのような結果となっています。

(委員)

私の方もいろいろと国土交通省の方とお話をしていた時に、最近では硫化水素以外でも様々入ってくる酸など、管がだいぶ腐食していき元々の想定よりもだいぶ早く管が弱くなってしまうというのを聞いています。八潮市の件があったからというのもあるのですが、最近いろいろなところで調査等が進められてきていて、この時はどうだったのかと思いお伺いしました。

(事務局)

長岡京市は調査対象箇所のマンホールについては、5年に1回の目視点検を毎年50か所程度ずつ順次実施するとともに、規模の大きいマンホールについては目視点検に加え硫化水素対策の気相調査も併せて実施しています。

(委員)

60ページ。浸水対策ですが、今里ポンプ場は平成18年度、いろは呑龍は令和4年度と令和6年度、神足雨水ポンプ場は令和6年度にそれぞれ供用開始をされています。神足雨水ポンプ場は令和6年度ですので効果がどうかというのはわからないかもしませんが、今里ポンプ場の供用開始は、平成18年度ですので浸水軽減効果はどれほどだったのか検証や実績は何かあるのでしょうか。

(事務局)

この場に資料がありませんのではっきりとは申し上げられませんが、国庫補助を活用した関係もあり、当時、再評価のようなものや振り返りの評価というものをしています。ある程度机上の数字ではありますが、これだけの効果があったのではないかということで効果ありの評価をいただいています。いろは呑龍トンネル事業についても資料にありますが、南幹線の他に北幹線があります。ちょうど阪急の洛西口駅の辺りから向日町市域(171号線沿い)に飲食店が並んでいるようなエリアまでが北幹線。長岡京市の浸水排除としては南幹線が対応するという形です。供用開始が令和6年3月14日と書いてありますが昨年4つの雨水取水口のうち2か所目が供用開始となったということで、まだ予定の半分ですが、以前に比べて浸水エリアというのは防除されているのではと京都府のホームページで評価されています。

事務局より資料に基づき説明

8. 中長期的に強靭で安定した健全経営の確保 資料 P62～P72

(委員)

71ページ。やはり水の安全性っていうことがすごく気になっています。毎月検査を実施していますと書いてありますが、その検査結果はどのようなものか、また、どこで知ることができますか。

(事務局)

検査結果は、3か月に一度、市のホームページで公表しています。

(委員)

基準値、PFOS、PFOAの暫定目標値が50ng/L以下と書いてあるのですが、長岡京市はどういう状況ですか。

(事務局)

水質結果ですけれども、市内に7か所の井戸があり、その井戸の深さであったり、帶水層のどこで水を取っているかなどそれぞれ個性があります。現在は7か所の内、その水質の暫定目標値50ng/L以下を超えている井戸は実際にあることから、それが51ng/Lとか52ng/Lとかの値で少し基準値を超ってしまった場合は、すぐに取水を止めています。ただ個々の井戸は止めているのですが、井戸全体の水が集まってくる混合原水の中で、次に浄水処理をして、府営水とブレンドして供給させていただいているのですが、全体として集まってくるところで基準値を超えたことはないのですけれども、やはり個々の井戸は個性がありますので、そこを令和7年度から個別に毎月検査することによって、水質検査結果が悪い井戸については、速やかに停止するというような水運用をしています。実際に供給している水は水質基準に適合した安全な水を提供しています。

(委員)

人体への影響が非常にあるというふうに報道されていて、分解をしない、永遠に体に残る化学物質であると言われると、私たちの世代はまあまあ先は長くないからいいけれども、子孫っていうか子供たちの世代っていうのはすごく蓄積されていっても無事だからいいってことで、それでもできるだけそれを減らせる方法があるのでしょうか。

(事務局)

ご心配はごもっともです。ただ国の方でも発がん性や人体の影響について調査を進めている途中であり、その中で現在、暫定目標値が50ng/L以下という国の基準が定められています。我々としても供給できる水道水として50ng/Lは超えないように運用していますが、そのような中でもできる限り低く抑えるため、個別の数値の高い井戸については停止する運用をしています。今後、新たな除去の方法等が国から示されるなど、国の動きを注視しながら取り組んでいきたいと考えております。

(委員)

52ページ。整備済災害用マンホールトイレが24か所276基ありますが、作られた後の各校区に対して、その施設の使い方などをもっと市民に伝えていく方法だったり、今度、西山公園体育館で実施されるそうですが、周知や広報についてのお考えを教えてください。

(事務局)

毎年、市の防災訓練などで各校区を回らせていただき、マンホールトイレの使い方とか自主防災会

等を中心に設置訓練などでデモンストレーション等をやっていただいている。

(委員)

私の校区でも実施しましたけれども私自身、自主防災会に入って、防災士をしています。もっと周知をしていくことが大事だなと思っていて、使い方を知らない人が多いので、やはりマンホールトイレが立派にあってもそれをいざというときに使えなければ意味がないので、もっと何か周知が必要なのかなと思います。

(事務局)

防災に熱心な地域では、防災訓練の際に、グラウンドの下に埋まっている場所がわからない等のご意見もあり、対策の工事などを実施しています。今後も、様々なご意見をいただきながら進めていきたいと考えています。

(会長)

PFOS,PFOA は令和 8 年の 4 月からの基準項目となります。今は水質管理目標設定項目というカテゴリーなのですが、それはできれば守りましょうっていうカテゴリーですけれど、令和 8 年度からはその上の基準項目に格上げになります。そうすると必ず守らないといけなくなって管理が強化されるのですが、対応がなかなか難しい市町村とかもあって、これから対応が全国的に大変なのですが、長岡京市でも井戸によっては問題があるということで、今、水質基準的には年に 4 回測ればいいのですが、少し丁寧に見ていただいているという状況だと思います。

基準の50ng/L というのは、非常に微量で、なかなかそれがいいのかどうかって判断は難しいのですけど、そういう毒性に関する研究だと日進月歩で進んでいますので、それを見て、基準値は 1 回決めたら終わりでなくて、その時々の新しい科学的な情報に基づいて更新します。これを逐次改正方式というのですけれど、そういった中で徐々に進んでいく話なのかなと思います。濃度が低いから大丈夫とはいわないですが長期間かけてそういう影響が表れることなので、正しく理解すること、恐れすぎず、無視せずというのが大事かなと思います。

(会長)

先ほど防災の話が出ましたけれども、私からの質問なのですが、長岡京市は例えば南海トラフ地震とかそういった大地震が来た時に何がどこまでダメージを受けて、どういうことが起きるかっていうような想定というか、シミュレーションみたいなのはされていますか。上下水道だけではなくても結構ですし、市全体としての危機管理シナリオみたいなものという意味です。いかがでしょうか。

(事務局)

市では地域防災計画の中で発災した場合の様々な対策・方向性について整理しています。被害想定としては、京都府において 15 年ぶりに被害想定が更新公表されました。15 年前の被害想定では短期避難者数が約 3 万 8 千人という内容だったのですが、この間、新築物件など耐震化が進み約 1 万 5 千人を切るくらいの短期避難者数となり、避難所へ避難する人数が大分と下がったところです。長岡京市の場合、南海トラフ地震よりも有馬・高槻断層帯の直下型地震の方が被害が大きいということで、4 月ごろに京都府で公表されたところです。その内容を受けまして、市の防災担当部局において、学識経験者や京都府などの関係する行政機関等参考のもと防災会議を開催する中で、どういった対策をしていくのか、例えば、備蓄にすれば少し備蓄数を落として種類を増やすなど、今年度に様々な形で対応を検討・更新していく予定と聞いてあります。市の場合、最大被害となる有馬・高槻断層帯地震の被害を想定した対策が必要になります。ただ、一方で南海トラフ地震というのは広域被害になりますので、長岡京市が被災した場合に、近県からの応援連携が難しくなってきますので、そういった課題に対してどのように対応していくのか、今、会長おっしゃってますように防災計画の方に落としこんでライフラインとしてどういった動きをしていくのかというのを今後においても更に検討を進めていかなければならぬものと考えております。

(事務局)

補足。

水道事業としましては、施設的な準備をしておりまして、例えば先ほどの地図の中で配水池っていう水道タンクがある旨の話をしました。基本的にはそういった配水池には、地震の時に水が

流れ出ないよう、タンクの中でとどまるように緊急遮断弁という設備をつけており、一定、配水池の中に水が確保できるような水位を維持し、いざという時にタンクの中の水を使えるようにしています。あと、給水槽といつといわゆる備蓄の資材や備蓄水を一定数備蓄し、災害時に配布したり、被災者の方に飲んでいただけるよう 10 年保存がきく備蓄用の水を確保するなど、一定の水量を確保しています。みなさまご存じだろうと思いますが、各小学校の備蓄倉庫にも配備させていただいており、災害時の水の確保、準備をさせていただいている。

(会長)

何度か二元水源の話も出てきましたが、二元水源だとこうで、そうじゃなかったらこういうダメージで、こういう被害でなど、地震なんて思っていた通りに思っていた時に起こるわけではないですが、いくつかの重要なシナリオみたいなものを考えられて、そういうものも含めて、ビジョンの範囲の 10 年後はいいとしてもその何十年か先はなど、上下水道事業はスパンの長い事業ですから、まずはいろいろ考えていくことは大事かなと思って今日、伺っていました。次のビジョンの改定の時にいろいろ考えられることかなと思います。

(委員)

66 ページ。上下水道事業の用途別有収水量の推移ですが、水道と下水道の減少と増加の傾向が違うのですが何か原因があるのでしょうか。と言いますのは、だいたい家庭用だったら、水道も下水道も同じくらいかなと思うのですが、平成 16 年度では、水道と下水道の差が多いのですが、令和 5 年度では差が近い、なおかつ水道よりも下水道は少ない状況になっている。こんなにも下水道処理していないものがあるのかなと感じています。

(事務局)

平成 16 年度と令和 5 年度の差で、平成 16 年度の下水道の方は、普及率が 90% を超えたばかり、一方で令和 5 年度は 99.9% とほぼ 100% となり、排除量が増えている状況です。あとなぜ家庭用の水道と下水道の水量に若干差があるのかということですが、通常であれば水道使用量イコール下水道使用量となります。例えば漏水が発生した場合、それは実際には使われてない水量ですので、減免の取り扱いや年間を通じた発生頻度等々によって差が若干出てくるというような状況、傾向かなと思います。

(委員)

平成 16 年度は、水道と下水道の普及率の差ということですね。

(事務局)

当時は、浄化槽というのも一定あります。下水道の普及をどんどん進めていく中で差が縮まっているのかなと思います。

(委員)

地震などが発生した場合、長岡京市の給水車等の体制はどのようにになっているのか。水というのは市民にとって一番大事なことで、昔、神奈川県に住んでいた時に頻繁に断水があって給水車が来るというのを覚えていて、車の整備はどのようになっていますか。

(事務局)

長岡京市には、被害が出た場合、出動する 2 トンの給水車が 1 台、あと簡易な断水等、いわゆる飲食店など水を多く使う事業をされている方のところが、工事で断水したりする場合に対応する、小さいタンクを積んだ給水車 1 台の計 2 台があります。大きい給水車の方は和歌山の水管橋の崩落事故の時にも応援給水として出動しました。

(委員)

私は 40 年長岡京市に住んでいますが、1 度も給水車のお世話になったことはないですし、いざという時に市民を守っていただける活動を期待しております。

(委員)

64 ページ。水道事業用途別有収水量の水位の棒グラフがあまり変化していない理由は。

(事務局)

有収水量なのですけれど、下の紺色の一番大きいところがいわゆる家庭用で、真ん中の緑の部分は営業用等、上の赤い部分が工場用なんですが、基本的に横ばいとなっているのは長岡京市

の場合、微増ですが、人口は増えています。やはりトイレなどの節水機器が普及してきていて水をあまり使わない生活様式になってきているというのもあり、人口は微増しているけれど、家庭用がほぼ横ばいとなっているのはあんまり水を使わない生活様式となっているというのが1つの要因としてあるものと思います。それと赤(工場用)の方はやはり経済状況といいますか、市内に大口の事業所が沢山ありますが、工場の使用水量が、実際には少し減ってきているというところがあり、トータルとして長岡京市の有収水量の状況がこのように横ばいになっているのかなというのがかなと思います。

(委員)

備蓄水には賞味期限が2033年10月24日とあるが、ここまで賞味期限が持つのは入れ物のおかげですか。

(事務局)

入れ物とか製造方法があると思います。ペットボトルで作っているところもありますが保存期間が短く、アルミ缶のほうが10年間保存できる状況となっています。

(委員)

57ページ。下水道管(汚水)老朽化(整備年度から50年以上経過)の将来推計の表の見方を教えてください。

(事務局)

現在、令和6年度末で汚水の管渠延長として228キロの下水道管があります。これでほぼ整備が完成というレベルに至っていますが、昭和49年度から作り始めて、令和6年度のグラフの端っこまで、ここまでかけて長岡京市が汚水の下水道管の新設が完了したというイメージのものになっております。その完了させるまでの期間で、例えば、昭和60年、平成6年や平成13年などは事業量が非常に多かったということを表示しており、こういった年度に巨額の投資をして面整備といいますか沢山の下水道を作り続けてきたという過去の歴史がありますというような表になっております。縦の棒が長ければ長いほど単年度で沢山の事業投資をして下水道管を作りましたと。それが結果的に30年50年ぐらい横にずれた形で老朽管となっていくということで改築更新がそこでまた新たなピークを迎えるということで、こういったことを少し前倒しであったり、後ろ倒しにしたり工夫していかなければならぬということを過去の政策の歴史から振り返って考えているところです。

(委員)

表の矢印下の14%というのは。

(事務局)

こちらの表は、10年経過後となる令和16年度時点で50年を超える管渠が何%発生するのかという表となっており、この場合、14%ということになります。

(委員)

20年後の令和26年度では50年経過する管渠が、51.7%になるということですね。

(事務局)

そのとおりです。今後年数が経過すれば劣化が進んでいくという表ですが、この間改築更新をしていきますので、その差は少なくなっていくものと考えます。

……【質疑終了】……

(会長)

今日は何かを審議するというよりは、新しく委員になられた方もおられるので、長岡京市の上下水道、あるいはそれを取り巻く課題について情報共有というか少し勉強していただくというのがメインの内容だったと思います。今のうちにある程度ご理解をいただいておいて、いつまで続けていただけるかはわかりませんけれども、今後のビジョンの改定、場合によっては料金の話だとかを審議していただく際に、こういったことが背景になって、どうするのかということを議論していただくための基本情報をご提供いただいたという位置づけでよいかと思います。

2. 議題

(2) その他(事務連絡事項:次回審議会開催等の案内などについて事務局から報告)

3. 閉会